



大学入学共通テストに向けて

3年生は、大学入学共通テストまで、あと2か月ほどになってきました。直前期である12月の過ごしが、共通テストでの好成績を収めるための重要な期間です。そして、これまで並行して進めてきた個別試験対策との学習時間のバランスを思い切って見直し、共通テストに特化した戦略へと舵を切るべき重要な局面でもあります。共通テストの成否を分けるのは、問題自体の難易度ではありません。むしろ、特有の出題形式と厳しい時間制限への習熟度が、結果を大きく左右します。しかし、これは裏を返せば、残された期間でも対策が十分可能だということになります。この最終盤での演習量を大幅に増やし、時間配分の感覚を体に染み込ませることができれば、得点を大幅に向上させることは可能です。

そこで、この2か月で心掛けてほしいことを一覧表にまとめてみました。ぜひ、参考にしてみてください。

【直前期の必勝チェックリスト】

1. 知識を徹底的に

※知識問題で確実に得点するためには、暗記事項の完成度が、大きく左右します。登下校中や休み時間などの隙間時間を最大限に活用し、繰り返し確認ていきましょう。

2. 試験日程に合わせた生活のリズムを

※大学入学共通テストは、実施される二日間ともに午前中から18時過ぎまで行われます。特に、多くの科目が午後に実施されるので、夕方まで集中できる生活のリズムを確立させることが大切です。直前演習として校内で実施される共通テスト対策演習（4回）を活用して、入試本番と同じ時間帯で高い集中力を持続させていけるよう心がけてください。

3. 万全な体調管理を

※最後の最後に体調を崩すことほど悔しいことはありません。うがい・手洗いの励行と食事や睡眠をしっかりとるといった規則正しい生活を心がけることが重要です。

4. 学習方針の再確認

※12月からは共通テスト対策が学習の主軸であることを再確認し、週に一度は必ずマーク式演習を行うなど、大学入学共通テストで好成績を収めるための学習を徹底してください。

模試データに基づく主要大学入試動向分析

2025年度大学入試における主要大学の志望動向を早期に把握することで、3年生は、今後の受験戦略を組み立てやすくなります。その分析の根拠となるデータは、信頼性の高い指標として広く認知されている「2025年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試」の情報です。この模試は、全国の多数の受験生が参加するため、現時点での志望動向を測る上で極めて重要な資料となります。

そこで、多くの本校生徒が、志望している九州地区の主な国立大学の動向や広島大学・岡山大学の情報をまとめてみました。

1. 九州大学の動向

九州大学は、依然として高い人気を維持しています。2025年度の志望者動向を見ると、法学部（前年比114%↑）、経済学部（経済・経営119%↑）、理学部（115%↑）、工学部（114%↑）といった主要学部で軒並み志望者が増加しており、大学全体として人気がさらに高まっていることがうかがえます。これは、難関大学への挑戦意欲を持つ上位層の受験生が、引き続き九州大学を第一志望として強く意識していることの表れと言えるでしょう。

2. 広島大学・岡山大学の動向

岡山大学経済学部（119%↑）や広島大学法学部（121%↑）といった文系の基幹学部で志望者が大幅に増加していることがわかります。この傾向は、過年度の実質倍率にも表れており、岡山大学経済学部は1.6倍（23年度）から2.1倍（24年度）へ、広島大学法学部は1.8倍（23年度）から2.3倍（24年度）へと競争が激化しています。これは資格取得や就職に有利とされる伝統的な社会科学系学部への人気回帰を明確に示しています。

3. 熊本大学 工学部（半導体デバイス工学課程）

志望者数568名（前年比107%↑）と、近年の半導体産業の集積を背景とした新設分野への高い関心がうかがえます。

4. 鹿児島大学 共同獣医学部

B判定ラインが66と非常に高く、過年度の実質倍率も8.4倍（2024年度）を記録するなど、依然として全国トップクラスの難易度と競争率を維持しています。

5. 長崎大学 経済学部

志望者数が前年比116%↑と大きく増加しており、地域の経済を担う人材育成方針に対する受験の大きな期待が表れています。

6. 佐賀大学 理工学部

全体で志望者数が前年比111%↑と増加しており、特に情報分野への志望者が542名と多く、情報系への関心の高さがここでも確認できます。

令和9年度鹿児島大学入試変更点（2年生対象）

2年生の皆さんも11月全国模試から理科・地歴公民の科目を受験し、志望校合格に向けた受験学習がスタートしました。そこで、2年生対象の「令和9年度鹿児島大学入試変更点」を取り上げます。入試変更点を正しく理解することで、ライバルに差をつける準備を始めましょう。詳細については、大学のウェブサイトで必ず確認してください。

令和9年度鹿児島大学入試の主な変更点

①「地域志向」と「専門性」の重視

※教育学部初等教育コース学校推薦型選抜入試Ⅱにおける「地域教員希望枠（9人）」や医学部保健学科総合型選抜入試における「離島枠（2人）」が新設されます。

②「多面的な評価」へのシフト

※教育学部学校推薦型選抜入試において、複数のコースで学業成績だけでなく部活動やボランティアなどの活動実績を評価対象に加える動きがあります。そのため、高校生活全体を通しての主体的な学びが重要になってきます。

③後期日程から前期・推薦重視への移行

※共同獣医学部や教育学部で後期日程が廃止・縮小され、専門性の高い推薦・総合型選抜が拡充されたことは、大学側が早期に鹿児島大学を第一志望とする「強い動機」を持った学生を求めていることを示しています。

共通テストを控える61期生へ

3学年部

共通テストまで残り2か月と迫ってきましたが、皆さんはどのような心境ですか？「どのような結果になるのだろうか…」と不安な気持ちを抱いている人もいるのではないでしょうか。突然ですが、年が明けて、共通テスト10日前の自分をイメージしてみてください…どういう気持ちになりましたか？

数年前、年が明けた1月、共通テストを10日前に控えた3年生に「共通テスト10日前の決意」というテーマで作文を書いてもらったことがあります。その中の2つの作文を紹介したいと思います。

<一人目の作文>

共通テストまで10日前になりました。100日前も50日前も1ヶ月前も「頑張らない」と思っていました。そして10日前になった今は「まだ頑張れたなあ…」と思っています。2学期が終わり、年が明けてから共通テストの存在を実感を持ってとらえました。100日前にこの緊張感があれば…目標を持って努力する。本当の心持を今になって理解できたと思います。模試では目標の得点率には届いておらず、とても焦っています。あと10日、自分にできることを精一杯取り組みたいと思います。共通テストが終わった後、あの10日間は本当に頑張れた…そう思えるようにしたいです。

<二人目の作文>

共通テストまで2週間を切り、冬休みには最後の模試が行われ、今まで一番悪い結果で、こんな点数で共通テストの本番を迎えるのか…と考えました。そこで、やっと今まで以上に焦りを感じたし、勉強の教科のバランスの悪さを理解しました。また、改めて残りの時間で何ができるのだろうかと考えさせられました。最後の模試のような結果にならないように、残り10日間、全力を尽くしたいです。そして、絶対合格を勝ち取りたいと思います。

多くの人が作文に「合格への決意」を書きながらも、「後悔や不安な気持ち」も書いていました。前向きな気持ちだけを持って、共通テストを迎える…という人は少数派なのかもしれません。共通テストを受験するにあたり、後悔や不安とどう向き合っていけばいいのでしょうか？

近年は科学技術が進み、スマホで雨雲レーダーを確認し、天気を予想できるようになりました。一方で、アフリカの奥地には今もなお、雨が降らないときに祈りをささげる部族がいるようです。興味深いことに祈りをささげると雨が必ず降るそうです。なぜ100%なのでしょう？答えは「雨が降るまでお祈りをやめない」から。1週間でも1ヶ月でも雨が降るまで懸命に祈り続け、最終的に願いを成就させるそうです。

「願いを成就させる」とはこのようなことなのかもしれません。他のことに心を奪われず、自分たちのやるべきことを一心不乱にやる。その姿勢の中でこそ願いはかなうものであり、同時に「不安」よりも「やるべきことはやってきた」という自信が上回り、不安が軽減されるのだと私は思います。

61期生の皆さん、共通テストまでの2か月、あきらめず、妥協せず、一心不乱に粘り抜いていきましょう。そしてやり切ったという思いを胸に、笑顔で卒業式を迎えよう!!!

